

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-228	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	現国・104-901	改訂版 現代の国語		

1. 編修の基本方針

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。
- 言葉の働きについて理解を深めるとともに、言葉を通して社会と関わる態度を養う。
- 論理的に考え、適切に伝え合うための、確かな思考力・判断力・表現力を培う。
- 現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育む。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
思考を深める		
■ ささやかな日常	言葉が持つ価値と、言葉の使い手である自身について認識を深め、個人の創造性や自主自律の精神を養えるようにした。(第2号)	p. 14～p. 19
社会と文化	他国の文化を理解することの難しさや国際社会で求められる姿勢について考察できるようにした。また、自国と他国の文化比較を通して、自国の文化の特徴について理解を深められるようにした。(第5号)	p. 20～p. 35
新しい視点	多角的に物事をとらえたり、身近な物事にも疑問を持ったりすることを通して、幅広い知識と教養を身につけることの重要性を認識できるようにした。(第1号)	p. 36～p. 63
ことばの働き	人間の思考や認識を支えるという言葉の働きについて理解し、言葉を用いて主体的に思考する力を培うことができるようにした。(第1号)	p. 64～p. 83
「わたし」の多様性	文化・言語・習慣など、さまざまな面で自分とは異なる他者とどのように向き合うべきかについて、具体的な事例を通して考えることができるようにした。(第3号)	p. 84～p. 101
技術・社会	地球環境の保全における重要な問題点について、自身の生活と具体的に関連づけて考察できるようにした。(第4号)	p. 102～p. 115
近代化と人間	現代社会における自己のアイデンティティのあり方について述べた文章を用いて個人と社会の関係を考察し、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした(第2号)	p. 116～p. 135

	時間についての考え方を述べた文章を用いて幅広い知識と教養を養うとともに、抽象的な思考を通して真理を追究する態度を育めるようにした。(第1号)	
認識の枠組み	現代社会の問題点を理解し、そこで求められる責任や他者を敬い協力することの重要性と個人の創造性について考え、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。(第2号・第3号)	p. 136～p. 158
考えを表す		
問題を提起する	感情と理性について取り上げた文章の読解を通して、公共の精神に基づき、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	p. 160～p. 163
対比する	命は自分のものか否かという、正解のない問題に取り組むことで、生命倫理について考察を深められるようにした。(第4号)	p. 164～p. 168
解釈を述べる	事実を多面的に表現することを通して、豊かな言語運用能力を身につけるとともに、自身のものの見方を省察することができるようにした。(第1号)	p. 169～p. 173
背景を調べる	歴史を学ぶことに関する文章の読解を通して、自らの属する伝統や文化への理解を深め、他国や国際社会の現在と未来についても考察できるようにした。(第5号)	p. 174～p. 181
賛否を述べる	科学と非科学について述べた文章を用いて批判的読解を試みることにより、主体的に文章を読み自身の考えを論理的に表現する力を養えるようにした。(第2号)	p. 182～p. 187
意見を述べる	現代社会の問題について異なる視点から述べられた二つの文章の読解を通して、幅広い知識を身につけるとともに、自己と社会との関わり方について考察できるようにした。(第1号・第3号)	p. 188～p. 195
関連づける	絵画鑑賞についての文章の読解を通して、教養と豊かな情操を身につけるとともに、文化を尊重する態度を養えるようにした。(第1号・第5号)	p. 196～p. 200
実用の文章	実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。(第3号)	p. 201～p. 224
表現編		
話し言葉の技術	自身の思いを他者にわかるように伝えたり、他者と共感し合ったりすることの大切さを、活動を通じて理解できるようにした。(第3号)	p. 226～p. 229
書き言葉の技術	自身の考えを深めたり、適切に表現したりするための基本的な方法を身につけ、さまざまな事柄に対して主体的に取り組む態度を培うことができる	p. 230～p. 241

	ようにした。（第２号）	
言語技術の実践	調査結果および自身の考えをまとめる活動を通して、知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。また、グループ活動によって個々の責任をはたす大切さを学ぶことで、主体性と他者を尊重する態度を身につけ、社会の形成に参画し、その発展に寄与できる力を養えるようにした。（第１号・第３号）	p. 242～p. 258
資料編・見返し		
グラフ・ポスター・パンフレット・新聞記事	実社会で広く用いられている資料や文章の特徴を学ぶことで、社会においてさまざまに発信されている情報を、自身の生活と関連づけながら正しく理解できるようにした。（第３号）	p. 260～p. 263
評論キーワード	主に論理的文章・資料などで用いられる言葉について、その意味やつながりを知ること、抽象的かつ論理的な思考を深め、自国および他国の文化・社会への理解と国際社会への発展に寄与する態度を養えるようにした。（第１号・第５号）	p. 264～p. 279
見返し	各題材に関連した資料などを通して、より学習の理解を深め、幅広い知識と教養を養えるようにした。また、実社会でも必要とされる情報探索の方法を知ること、主体的に学ぶ姿勢を身につけ、個人の能力を高められるようにした。（第１号・第２号）	前見返し 後見返し

３．上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第５１条２号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、教材の読解にとどまらず、教材に関連したテーマの理解を深めたり、基本的な言語技術を確認したり、読書活動につなげたりできるようなコラム（「チェックポイント」「ズームアップ」「解説」）を随所に掲載した。
- 学校教育法第５１条第３号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末には、現代社会のさまざまな話題や問題を多角的な視点から考察できる設問や言語活動例を多数用意した。

編 修 趣 意 書

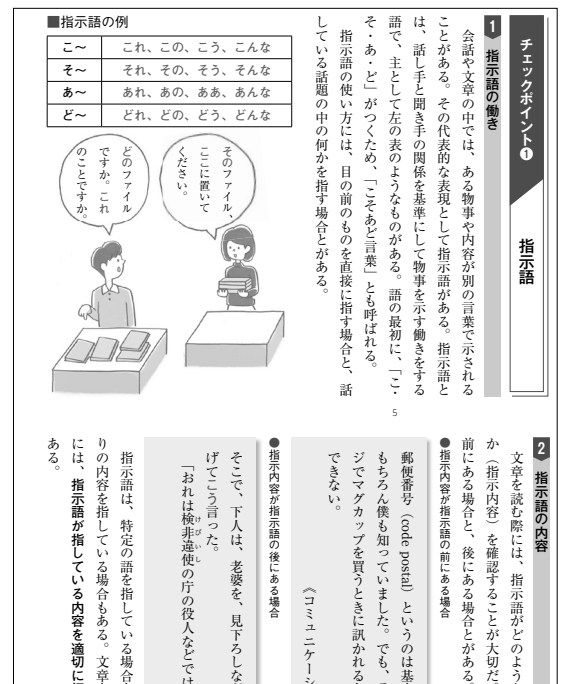
(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-228	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	現国・104-901	改訂版 現代の国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1)全体

- ①「思考を深める」「考えを表す」「表現編」「資料編」の4編で構成し、どの編においても、さまざまなテーマの論理的文章・実用的文章を掲載した。
- ②「チェックポイント」コーナーを設けて、文章を読解したり表現したりする際に身につけておきたい知識・技能を解説した。
- ③ 発表したり話し合ったりする活動を通して、教材のテーマについて理解も深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。



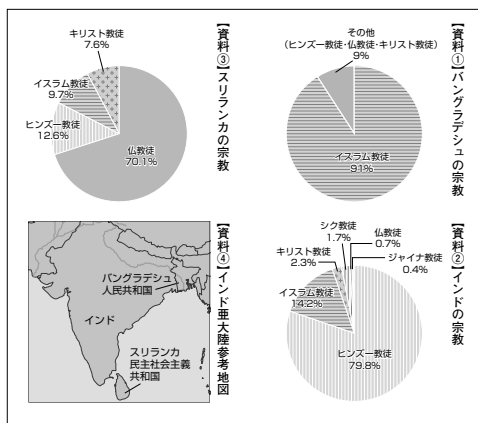
- ④ 本編教材とあわせて学ぶことで理解が深まる教材を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、資料を比較したり関連づけたりする力を養えるようにした。



- ⑤ 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

・現代の社会生活に関するテーマについて述べた文章、図表や資料を用いた文章など、さまざまな形式の文章に触れられるよう配慮した。

・多彩な言語活動を通して、自分の考えを論理的に表現する力、目的に応じて書く力を身につけられるようにした。



1「こにも、つながらの二つの側面。境界が溶ける動きと境界を強化する動きがあらわれています」（日本・10）とあるが、「つながらの二つの側面について」、「一」と「二家族」の例に即してそれぞれ具体的に説明してみよう。

2「わた」という存在について、筆者はどのように考えているか。（他者＝輪郭」という語を用い一つ、本文全体を踏まえて説明してみよう。

言語活動

・ 次の会話文は、「どういう境界線が比較するから、差異」そのものが表れる（ゆゑ）ということにして、次頁の「資料①」～「資料④」を踏まえて生徒が話し合っている様子である。空欄に入る発言の内容を百字程度で書いてみよう。

Aさん「バグダデシとインドとスランカはそれぞれ独立した国家ですが、同じ国の中で同じる宗教がそれぞれまであることがわかりました。「インド」といってもその中には、ヒンズー教徒もイスラム教徒もキリスト教徒もいます。

Bさん「普段私たちは「国境線」をもとに、どこどの国のかという「差異」を前提にしていることがほとんどかもしれないです。

Cさん「したがって、(〇〇)人はこゝだ。」という言い方をよく耳にします。でも、本で述べられているように、例えば「京都」と大阪」という「差異」は、関西と関東」という「境界線」で比較されるときには意識されなくなると、これを「資料①」、「資料④」を例にして説明すると、 というこになり、国籍という「境界線」は絶対ではないと言えふかもしれません。

言語活動

1 「ものは言いよう」(二三・上11)について、次の(1)・(2)にそれぞれ取り組んでみよう。

(2) 次のA新聞とB新聞の記事は、どちらも同じ都市について書かれており、A新聞とB新聞とでは、読み手に逆の印象を与えるように述べられているとする。A新聞の記事からB新聞の記事を予想して書いてみよう。

A
新聞

この都の人々は、国の景観政策のために、古い建物で生活している。自宅さえも、必要最低限の修理や改築しなくてはならない。建築物の高さやデザインの規定が厳しすぎて、自由に行うことができない。国が「緑の都市計画」によって伝統的景観が保持される一方、同様の住居が際限なく並ぶ風景は画一的で窮屈な印象も生み出している。

B
新聞

生み出している

(3)表現編

・汎用的な言語能力を身につけるための基本知識を解説し、適宜「思考を深める」「考えを表す」の内容と関連をもたせ、相互に効果的な学習ができるようにした。

情報の聞き取り方

聞くトレーニング

▼目的に応じて情報を聞き取る

▼注意深く正確に聞く。

目標

1 「聞き取る」ために

文章と異なり、音声はその場で消えてしまう。情報を含む音声を聞き、その内容をその場で理解するには、訓練が必要である。つまり「聞こえる(hear)」ではなく「聞き取る(listen)」のためのトレーニングだ。その代表的なものに「スキミング」(大意をつかむ方法)と「スキヤニング」(具体的な情報を探す方法)がある。



(4)資料編

・論理的な文章や、実社会の具体的な場面で用いられる言葉について、その意味やつながりを知ることで、抽象的かつ論理的な思考を深められるようにした。

社会・経済を知る10のワード

然て共同體について、人間は自然と共同體の一部であるといは絶対的・神聖の前で暴力で決する、主目的として自己の欲求を遂げることにのみ個人となつた。そして、個人として人間の理性が重視されるやうになつて、近代合理主義という思想が生ずるに至つた。共同體から解放された個人の人間性を本家や労働者となることで資本主義社會、消費社會が生ずれた。

しかし、近代合理主義や資本主義にももききなな問題があることが明らかになりつつある。それらを相対化して多様な価値観・認識をもつてそのポストモダンという思想の立場も生まれた。

前近代

古代・中世・近世を含む時代区分のこと。あくまで相対的な時代区分であり、一般的には近代の前の時代を広く指すときに用いられる。

近代

近世の後の時代区分のこと。西洋では市民革命の時代からロシア革命までを、日本では明治維新から太平洋戦争終結までを指すことが多い。

2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容										該当 箇所 [頁]	配当時数		
単元	教材	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等									話す・ 聞く	書く	読む
					A 話すこと・聞くこと		B 書くこと		C 読むこと							
		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)						
社会と文化	ささやかな日常	ウ・カ							ア	ア	14			1		
	コミュニケーション能力とは何か	ウ・エ・カ							ア・イ	ア	20			1		
	【チェックポイント1】指示語	カ									27					
	水の東西	ウ・エ	イ						ア		28			1		
	【ズームアップ】文化	エ		ア	イ	ア					34	1				
新しい視点	白紙	ウ・エ・カ							ア		36			1		
	「わらしべ長者」の経済学	ウ・エ							ア	ア	42			1		
	【チェックポイント2】文脈の理解	カ									50					
	【チェックポイント3】接続語	オ	ア								51					
	政治的思考	ウ・エ	ア						ア・イ	イ	52			1		
	【探究の扉】未来をはじめる		ア		イ	ア					58	1				
	【言語活動の実践】テーマを決めて話し合おう	イ	ウ		エ・オ	ウ					62	1				
ことばの働き	ものとことば	ウ・エ	イ						ア		64			1		
	【ズームアップ】どこにも蝶などいない	ア		ア	ア	エ					72	1				
	心と「ことば」	ウ・エ							ア		74			1		
	【チェックポイント4】要約	オ	ア								83					
「わたし」の多様性	一人の中にある無限	ウ・エ							ア	ア	84			1		
	「わたし」の輪郭	ウ・エ					ア・ウ	ア			92		1			
	【チェックポイント5】具体例	カ									101					
技術・社会	未来世代への脅威	ウ・エ							ア・イ	ア	102			1		
	【探究の扉】地球の限界と経済社会の危機		イ						イ	イ	111			1		
	【ズームアップ】環境問題のこれから	オ		ア	ア	エ					115	1				
近代化と人間	ポスト・ブライバシー	ウ・エ・カ					イ				116		1			
	【ズームアップ】情報とメディア		エ	ア	ア	ア					124	1				
	時間と自由の関係について	ウ・オ	イ						ア		126			1		
	【ズームアップ】近代と時間の関係	カ		ア	イ	ア					134	1				
	【チェックポイント6】文末表現	オ									135					
認識の枠組み	浪費を妨げる社会	ウ・エ							ア		136			1		
	他者を理解すること	ウ・エ							ア		143			2		
	【ズームアップ】自己と他者の理解とは	カ		ア	オ	エ					151	1				
	白	ウ・エ							ア		152			2		
問題を提起する 対比する	感情暴走社会の由来	オ					イ・ウ	ア			160		1			
	命は誰のものなのか		ア				イ・エ	ア			164		2			
	【ズームアップ】科学と生命を考える	オ		ア	イ	ア					168	1				
解釈を述べる	事実なのか考えなのか	エ					イ・エ	イ			169		2			
背景を調べる	「歴史を学ぶ」ということ			ア			ア・ウ	ウ			174		2			
	【ズームアップ】社会と人間	ア		ア	ア	エ					181	1				
賛否を述べる	科学と非科学		ア				イ・ウ	ア			182		2			
	【言語活動の実践】根拠を示して意見文を書こう						イ・エ				186		2			
意見を述べる	無痛化する社会のゆくえ		オ				イ・ウ	ア			188		2			
	【チェックポイント7】文章構成	オ									194					
関連づける	絵を前に思いをめぐらす	エ	ウ				イ・ウ	ア			196		2			
	【ズームアップ】芸術の価値とは	ア		ア	イ	エ					200	1				
実用の文章	複数の資料を読み比べて考えをまとめる		イ				ア・イ	ウ			201		2			
	資料を分析して考えをまとめる		ウ				ア・イ	ア			206		2			
	【チェックポイント8】比較	ア	ウ								211					
	目的に合わせて表現を工夫する	エ					イ・ウ・エ	イ			212		1			
	コミュニケーションの手段を考える	カ	イ		ア・イ・ウ	ウ					216	1				
	文章の構成を工夫して提案する		ア				イ・エ	ウ			220		6			
話し言葉の技術	【聞くトレーニング】情報の聞き取り方	イ									226					
	【話すトレーニング】説得力のある話し方	イ									228					
書き言葉の技術	【文章トレーニング1】文章構造を理解する	オ									230					
	【文章トレーニング2】要約する	オ	ア								232					
	【文章トレーニング3】比較する		ウ								236					
	【文章トレーニング4】論証する		イ・ウ								238					
	【文章トレーニング5】意見文を書く	オ	オ								240					
言語技術の実践	【実践1】レポート		エ・オ				ア・イ・ウ	ウ			242		5			
	【実践2】プレゼンテーション		エ・オ		ウ・エ・オ	イ					247	4				
	【実践3】ディベート・討議		エ・オ		イ・エ・オ	ウ					252	4				
資料編	グラフ・ポスター・パンフレット・新聞記事	エ	ウ・エ								260					
	評論キーワード	ア・エ									264					
前見返し	評論文のテーマを理解する			ア							①②					
後見返し	情報探索と利用の方法		エ								④⑤⑥					
配当時数合計		A 話すこと・聞くこと											20			
		B 書くこと												33		
		C 読むこと													17	
		合計													70	